注）「前々年度の揮発油の供給量」は、前年度の非化石エネルギー源の利用目標達成計画において経済産業大臣に提出した供給量を記載すること。
注）「前々年度におけるすべての特定石油精製業者の揮発油の供給量の総計」は、経済産業省が示す値を用いること。
注）「割合」は、パーセンテージで表した値の小数第三位を四捨五入した値を記載すること。

○石油精製業者によるバイオエタノールの利用の目標量の総計【単位：原油換算】

2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
(G)	(H)	(I)	(J)	(K)	(L)	(M)
21万ＫＬ	21万ＫＬ	26万ＫＬ	32万ＫＬ	38万ＫＬ	44万ＫＬ	50万ＫＬ

○バイオエタノールの利用の目標量（調整前）【単位：原油換算】(N)

2011年度 Ｆ×Ｇ	2012年度 Ｆ×Ｈ	2013年度 Ｆ×Ｉ	2014年度 Ｆ×Ｊ	2015年度 Ｆ×Ｋ	2016年度 Ｆ×Ｌ	2017年度 Ｆ×Ｍ
キロリットル	キロリットル	キロリットル	キロリットル	キロリットル	キロリットル	キロリットル

注）当年度の他、次年度以降についても参考値として記載すること。終了年度については「―」と記載すること。
注）算出された数量の10キロリットルの位を切り上げた数量を記載すること。

○グループ会社又は他の特定石油精製業者との契約に基づくバイオエタノールの利用の目標量の増減に係る事項【単位：原油換算】

グループ会社又は他の特定石油精製業者との契約に基づく利用の目標量の増加	
事業者名	増加量
	キロリットル
合計(O)	キロリットル

グループ会社又は他の特定石油精製業者との契約に基づく利用の目標量の減少	
事業者名	減少量
	キロリットル
合計(P)	キロリットル

注）グループ会社については、事業者との関係を示す資料を添付すること。他社との契約については、契約書の写しを添付すること。

○前年度（４月～３月）においてバイオエタノールの利用の実績量がバイオエタノールの利用の目標量を上回る際の実績量と目標量の差分【単位：原油換算】

前年度において実績量が目標量を上回る際の実績量と目標量の差分(Q)	キロリットル

注）Ⅲで算出する値(V)を記載すること。

○前年度（４月～３月）においてバイオエタノールの利用の実績量がバイオエタノールの利用の目標量を下回る旨の届出に係る事項【単位：原油換算】

前年度において実績量が目標量を下回る際の実績量と目標量の差分(R)	キロリットル

注）届出の写しを添付すること。

○当年度におけるバイオエタノールの利用の目標量【単位：原油換算】

当年度（平成　　年度）の調整後の利用の目標量(S) Ｎ＋Ｏ－Ｐ－Ｑ＋Ｒ	キロリットル

Ⅲ　前年度におけるバイオエタノールの利用の状況

○前年度におけるバイオエタノールの利用の目標量と実績量

	単位：原油換算	単位：エタノール換算
前年度の利用の目標量(T)	キロリットル	
前年度の利用の実績量(U)	キロリットル	キロリットル
Ｕ－（Ｔ－Ｒ）(V)	キロリットル	

注）根拠資料を添付すること。
注）前年度のバイオエタノールの利用の目標量(T)は、前年度の非化石エネルギー源の利用目標達成計画において経済産業大臣に提出した調整後のバイオエタノールの利用の目標量の値を記載すること。
注）エタノール換算から原油換算に変換する際には、エタノール換算で表した数量に0.607を乗じて得た数量を使用すること。キロリットル位未満の端数がある場合には、その端数を切り捨ててキロリットル位にとどめること。
注）バイオエタノール由来のエチルターシャリーブチルエーテル（以下ＥＴＢＥ）の数量をバイオエタノールの数量（エタノール換算）に変換する際には、ＥＴＢＥ数量に0.4237を乗じて得た数量を使用すること。キロリットル位未満の端数がある場合には、その端数を切り捨ててキロリットル位にとどめること。

○導入したバイオエタノールのＧＨＧ排出効果

原料	産地	ＧＨＧ排出削減効果	実績量（単位：エタノール換算）
		%	キロリットル
		%	キロリットル
	計	%	キロリットル

注）根拠資料を添付すること。
注）「ＧＨＧ排出削減効果」については、加重平均して得た値を記載。

※実証段階にあるバイオエタノールとして公正に評価されたものを原料とするバイオエタノールの実績量

原料	産地	実績量（単位：エタノール換算）
		キロリットル
		キロリットル
	計	キロリットル

注）根拠資料を添付すること。